

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和5年10月6日
タイトル	令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会へ参加して
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和5年9月27日（水）、28日（木）の2日間、秋田県鹿角市において令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会が初めて開催されました。

水土里ネット男女共同参画推進大会は、土地改良区における男女共同参画推進の意義をより一層深めるとともに先進的な取組事例を学び、それぞれの地域において男女共同参画を推進することを目的とし、全国の「水土里ネット女性の会」の会員や関係者、約200名が一堂に会しました。

広島県からは、水土里ネットひろしま女性の会 猪垣ふみよ会長を始め4名が参加しました。

基調講演では、農林水産省農村振興局農村政策部の佐藤一絵部長が「土地改良区の未来を拓く多様な人材の活躍に向けて」と題して講演されました。

農村地域で女性が減り、農業に従事する女性の割合が低下していることや土地改良団体における女性の参画状況などについて話されました。特にキーワードとして「しなやかで、ゆるやか、そして欲張り！」と「努力はするけど無理はしない」いう言葉が印象に残りました。



第一線で活躍される佐藤部長のお話には、同じ働く者として大変勇気をいただきました。

「しなやかでゆるやか」な気持ちを忘れずに業務に取り組みたいと思います！

パネルディスカッションでは、コーディネーターとして秋田県立大学生物資源科学部生物環境科学科 長濱健一郎教授、パネラーとして宮崎県の大島堰土地改良区 奥村千扶子理事長、秋田県の大仙市大曲土地改良区 今野信子理事、岩手県の胆沢平野土地改良区 千田公喜理事長、鳥根県土地改良事業団体連合会 中尾祥子理事が登壇され、基調講演された佐藤一絵部長が臨席されてお話されました。

女性の理事、理事長になられた経緯を当事者からお聞きするまたとない機会となりました。また、女性理事を登用された千田理事長には、女性理事ならではの視点で変わったことなど具体的なお話をお聞きすることができ、これから女性理事登用を考えている土地改良区の参考になりました。

大島堰土地改良区 奥村千扶子理事長は、現在、全国の土地改良区の中で唯一の女性理事長だそうです。奥村理事長のお話には会場は笑顔に包まれました。そのお人柄とパワーで元気をいただきました。



翌28日は、現地研修トーク講演が開催されました。

講師として、由右衛門果樹園の田中順子氏、レディースファーム代表の米田敦子氏、かつの土地改良区事務局長で全国女性の会会長の根本由紀子氏が登壇され、お話をお聞きしました。

由右衛門果樹園の田中順子さんは、桃生産の北限の地である鹿角市で桃生産を40年続けておられ、女性農業士として女性農業者への栽培指導などしておられます。

レディースファーム代表の米田敦子さんは、平成12年に農家の主婦10人でレディースファームを立ち上げられ、特産物のりんごや桃を使った商品を開発販売しておられます。

お二人から生産者として女性ならではの苦労もあったことをお聞きすることができました。

水土里ネット福山から参加した蘭栽培農家の小林菜穂美さんは、「同じ生産者として、田中さんや米田さんの生の声をお聞きし、日本のどこでも同じような苦労をしてこられたことを思い、明日から私も頑張ろうと思った。」  
「もっと全国の女性生産者の話が聞きたい。」と言っておられました。



田中順子さんが、「ここをこうしよう、今度はこうしてみようと頑張っていたら、いつの間にか40年が経っていました。」と言われました。  
日々の積み重ねを大切にしたいと思いました。

水土里ネット男女共同参画推進大会に参加して、土地改良区の中で、多くの女性が活躍して輝いておられる姿を拝見し、感銘を受けました。

今回学んだことを参考にし、女性理事の登用に向けた取り組みや女性や若い世代の組合員が活躍できるような取り組みに努めたいと思います。

また、今回多くの女性の会の会員の方と複式簿記や賦課金徴収といった業務や女性職員の雇用状況など具体的な課題について意見交換することができました。情報を共有、交換することにより、それぞれの土地改良区の課題対応に活かせると思いました。

水土里ネット男女共同参画推進大会が継続的に開催されることを期待いたします。

水土里ネット福山は21世紀土地改良区創造運動の一環として、様々な活動を「水土里レポート」にして継続的に投稿しております。